

# 全国学力・学習状況調査について

## 1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

## 2. 調査実施日

令和3年5月27日（木）

## 3. 調査の対象

泉佐野市立日新小学校 第6学年，全児童

実施児童数（69人）

## 4. 調査の内容

### (1) 学力に関する調査

ア 教科は、小学校は国語及び算数，中学校は国語及び数学。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、知識・技能に関する内容と、それらを活用する力や構想を立てて実践し評価・改善する力などに関する内容とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

### (2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

### (3) 学校の取組に関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- ・平均正答率を見ると、泉佐野市と同じ、全国と比較すると4.7ポイントのマイナスで、国語科における課題が多いと考えられる。
- ・分類、区分で見ると、ほとんどの項目が全国の平均正答率を下回っており、特に目的に応じて文章を構成したり、情報を読み取ったりすることに課題があると考えられる。

平均正答率（本校 60 / 泉佐野市 60 / 大阪府 63 / 全国 64.7）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問
<p>○概ね理解できていた項目</p> <p>1 目的や意図に応じ、資料を使って話す。</p> <p>1三 津田梅子についての【スピーチ】の練習の [ ] の部分で話す内容として適切なものを選択する。(81.2/81.0)</p> <p>2 思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う</p> <p>2二 面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する(88.4/87.5)</p> <p>3 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。</p> <p>3三 丸山さんの【文章の下書き】の中の一部エを漢字を使って書き直す(げんいん) (79.7/79.0)</p>	<p>●課題が見られた項目</p> <p>1 目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える</p> <p>1一 津田梅子の二つの業績を明確に伝えるために、【スピーチメモ】と【スピーチ】の練習で上野さんが話した構成の説明として適切なものを選択する(72.5/77.5)</p> <p>2 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける</p> <p>2三 面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く。 (29.0/34.4)</p> <p>3 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う</p> <p>3三(1) ウ 丸山さんの【文章の下書き】の中の一部ウを、漢字を使って書き直す(つみ重ね) (47.8/54.4)</p> <p>●特に課題が見られた項目</p> <p>1 文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する</p> <p>2一 面ファスナーに関する【資料】の文章が、何について、どのように書かれているかの説明として適切なものを選択する。(65.2/77.6)</p> <p>2 目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する</p> <p>3二 丸山さんの【文章の下書き】の…部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す (42.0/56.6)</p> <p>3 文の中における主語と述語との関係を捉える</p> <p>3三(2) イ 丸山さんの【下書き】の中の一部イで、～部「残されています」の主語として適切なものを選択する(50.7/67.0)</p>

### 3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか	46.4	58.4	○	12.0
国語の勉強は大切だと思いますか	92.8	93.2		0.4
国語の授業の内容はよく分かりますか	86.9	84.2		2.7
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	89.8	91.8		2.0
国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか	81.1	82.2		1.1
国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか	56.5	63.8	◇	7.3
国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか	69.5	71.6		2.1
国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしていますか	73.9	74.3		0.4
今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか	79.7	80.1		0.4

○「国語の勉強は好きですか」の設問では全国を大きく下回った。本校児童は、国語科が楽しくないと感じている児童が半分ほどいることが分かる。国語が好きだと感じられるような授業をする必要がある。

○「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか」の設問では、全国平均を7.3ポイント下回った。これについては、授業改善が有効な方法だと考える。まずは、授業で自分の考えを表現する機会を意図的に増やすなどしたい。

○「文章と図表を結び付けて必要な情報を見付ける」趣旨で出題されている2三の問題では、全国平均との差は5.4ポイントであるが、正答率が29.0%と全体の3割に満たない。これについては、扱う文章に図表を用いているものが少ないことや、授業内で文章の読み取りが中心になり、必要な情報を自分自身の力で見つける機会が少ないことが原因にあると考えられる。授業内に自分で必要な情報を見つける活動を取り入れていきたい。

○「文の中における主語と述語との関係を捉える」趣旨で出題されている3三(2)イの問題では、全国平均を16.3ポイント下回った。低学年から作文などを書く際に主語と述語が一致した文章にすることと、文章の読み取りの際に述語にあたる主語は何か確認しながら指導し、積み上げていきたい。

○一昨年度と比べると、国語の校内テストの積み重ねや課題に対する取組により少しずつ成果は出てきている。しかし依然として多くの設問より、目的に合わせて文章をまとめたり、構成したりする力が低いと考えられる。文章の書き方の習熟のため、月に2～3回程度朝学の時間に作文スキルを身につける課題にとりくむ活動を取り入れていきたい。

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

- ・平均正答率を見ると、泉佐野市からは2ポイントのプラス、全国と比較すると0.2ポイントのマイナスで、概ねできていると考えられる。
- ・分類、区分で見ると、半分の項目は全国平均正答率を上回っているが、学習指導要領の領域『変化と関係』『データの活用』が2ポイントほどマイナスであるので、課題と考えられる。

平均正答率（本校 70 / 泉佐野市 68 / 大阪府 70 / 全国 70.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率 / 全国正答率）

算数	特徴がみられた設問
<p>◎よくできていた項目</p> <p>① 複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述することができる。</p> <p>2 (3) 二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形面積の求め方と答えを書く。 (56.5/46.0)</p> <p>○概ねできていた項目</p> <p>① 二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる。</p> <p>1 (1) 二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く。 (69.9/62.5)</p> <p>② 三角形の面積の求め方について理解している。</p> <p>2 (1) 三角形の面積の求め方について理解している。 (62.3/55.1)</p> <p>③ 商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算することができる。</p> <p>4 (2) 8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式と答えを書く。 (60.9/55.5)</p> <p>④ 少数を用いた倍についての説明を理解し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる。</p> <p>4 (3) 30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く。 (59.4/51.5)</p>	<p>●課題が見られた項目</p> <p>① 複数の図形を組み合わせた図形面積について量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる。</p> <p>2 (2) 直角三角形を組み合わせた図形面積について分かることを選ぶ。 (62.3/72.5)</p> <p>② 帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる。</p> <p>3 (4) 帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く。 (42.0/52.0)</p> <p>③ 集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる。</p> <p>3 (5) 5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を調べるために、適切なデータを選ぶ。 (68.1/73.9)</p>

### 3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか。	68.1	67.8		0.3
算数の勉強は大切だと思いますか。	98.5	93.8		4.7
算数の授業の内容はよくわかりますか。	94.2	84.6	◇	9.6
算数の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか。	94.2	92.6		1.6
算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。	76.8	73.9		2.9
算数の問題の解き方が分からないときはあきらめずにいろいろな方法を考えますか。	88.4	82.7	◇	5.7
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。	88.4	89.0		0.6
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。	94.2	91.9		2.3

○学習状況調査の結果をみると、ほぼ全ての項目で全国を上回っている。また一昨年度と比較しても算数に対し、前向きに学習にとりくむ児童が増えていることがわかる。これは、5年前より研究科目が算数であり、1年生から6年生までの縦のつながりを意識して指導してきていることが大きな要因だと考える。今後も、今まで積み重ねてきている指導方法を全職員で共通理解し、問題をつかみ、見通しをもち、ひとりひとりが自信をもって問題解決できるように、研究を重ねながら指導していきたい。

○「算数の授業の内容はよくわかりますか」の設問では、全国を9.6ポイント上回っている。児童が算数の授業内容（問題）をつかみ、イメージしながら学習にとりくめていることがわかる。

○「算数の問題の解き方が分からないときはあきらめずにいろいろな方法を考えますか」の設問では、全国を5.7ポイント上回っている。日ごろからイメージしていることを絵や図（○図・テープ図など）に表し、いろいろな方法を試すと解決することができることを実感し、実践につなげていると考えられる。

○国語の分析ともつながるが、多くの情報から必要な情報を読みとることに課題があると考えられる。情報量の多い問題にも挑戦する機会を増やし、自分で必要な情報を見つける活動を取り入れていきたい。

○データ領域については、データの中から必要なものを選ぶだけでなく、自分がデータをつくる際には何が必要になってくるかなど、順思考や逆思考も必要になってくる。今後の授業では、順思考の問題だけではなく、逆思考の問題にも取りくめるよう、授業展開の工夫をしていきたい。

### 令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択で選ぶものは、選択肢1、2と3、4はそれぞれ同じ傾向と捉える。(例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない)

また、それ以外の質問は特徴的な事柄を取り出し、それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して5%以上差のあるものの中で、特徴的な項目を列挙した。さらに、下線部に関しては10%以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【家庭生活の様子】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○就寝時刻などの家庭での生活リズムが不規則であり、委員会活動等で啓発が必要である。</li> <li>○1日に4時間以上テレビゲームをしている児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか (62.3/71.2)</li> <li>○毎日、同じくらいの時刻に起きていますか (79.7/90.4)</li> <li>○普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか (24.6/15.5)</li> </ul>
【家庭学習の様子】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭での学習の時間は全国に比べて長い。</li> <li>○読書をしていない児童の割合が高く、読書のよさを感じ読書に親しめる機会をさらにつくる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○<u>学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)</u> (47.8/26.9)</li> <li>○<u>学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)</u> (7.2/18.2)</li> </ul>
【学校での学習の様子】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校の授業等でコンピューターなどのICT機器の使用頻度や活用が低く、積極的な活用が必要である。</li> <li>○児童自身が課題を意識することができておらず、課題設定の工夫が必要である。</li> <li>○学級会で話し合いを行いクラスをより良い方向に進めている。</li> <li>○道徳の授業に意欲的に参加し、意見交流することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5年生までに受けた授業で、コンピューターなどのICT機器をどの程度使用しましたか(2.9/11.2)</li> <li>○<u>学習の中でコンピューターなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか</u> (50.7/66.1)</li> <li>○<u>総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか</u> (58.0/73.0)</li> <li>○あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いのよさを生かして解決方法を決めていますか (79.7/73.4)</li> <li>○道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか (88.4/81.1)</li> </ul>
【自己肯定感】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○将来の夢や目標を持っている児童の割合が低く、これからの自分について考える機会を意図的につくる必要がある。</li> <li>○学校に前向きな思いをもち、自信をもてるよう、失敗してもよい雰囲気づくりや成功体験を積ませる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○<u>将来の夢や目標を持っていますか</u> (63.7/80.3)</li> <li>○<u>自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか</u> (69.5/84.3)</li> <li>○<u>難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか</u> (59.4/70.9)</li> <li>○<u>学校に行くのは楽しいと思いますか</u>(66.7/83.4)</li> <li>○<u>自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか</u>(53.9/70.3)</li> </ul>

## 本校の取組

### ◎これまでの取組

本校では昨年度までの4年間で、児童の学力実態を踏まえ、主に算数科を中心に校内研究を推進してきた。また、ここ2年間は、それまでに研究してきた「基礎・基本を身につけること」を土台とし、「自ら考え、表現できる子どもの育成」をめざして校内研究を進め、校内全体で自力解決・自力発見型の授業を多く取り入れ、既習の学習を活用し自分の力で問題を解こうとする態度を育ててきた。また、少人数による個に応じたきめ細かな指導や基礎・基本を徹底した学習や、子どもたちの学習態度を養っていくための学習規律の徹底などの取組も進めてきた。さらに、授業の時間だけでなく、校内で自作したテスト問題の出し方なども工夫し、その結果を分析し指導につなげることにより、数学的な思考力がより効果的につくように取り組んできた。日々の授業では算数をより身近に感じられるような問題場面の設定や、日常の中で活かされている算数を意識できるような問いを考えるようにしてきた。その結果、自力解決・自力発見型学習においては、複数の図を使って問題を解こうとしたり、説明しようとする態度が身につけてきたりするなど、一定の成果がみられるようになった。

本年度、全国学力・学習状況調査の算数においては、ほぼ全ての設問で全国を上回ることができた。それは、日ごろからの全校での算数科に対する取組が活かされた結果だと考えられる。

しかしながら、国語においては、全国を大きく下回った。算数だけでなく、国語をはじめ、他の教科に対する取組の広がりが必要であると感じた。

また、児童質問紙からは、「スマホやテレビゲームの時間や生活リズムの管理」、「学習でのICT機器の活用」などに課題が見られた。本年度より本格的にChromebookが導入され、研修等で教職員のスキルを高めるとともに、情報リテラシー等についても学びながら積極的に学習に活用するようになってきた。本年度の取組が今後の本校児童の育成に効果を発揮すると期待している。

### ◎これからの取組

#### 国語

国語においては、ほとんどの区分において全国の平均正答率よりも下回っていた。特に、主語と述語との関係を捉えることにおいての差が大きく、文章理解の基礎基本の定着に大きな課題が見られた。また、国語科の学習への関心そのものにも課題が見られた。

これらの結果を受けて、まず国語の読み書きに関する基礎基本の定着を重点的にめざすことにした。

それぞれの学級や学年で進められている朝学習のなかで、視写など正しい文章を読んだり書いたりする機会を増やすこと、授業内に自分で必要な情報を見つける活動などをとりいれること、家庭学習での漢字学習をどのように取り組ませるかなど全校で取り組み、基礎基本の定着をめざし、子ども自身が国語に対して自信や関心をもてるようにしていきたい。

さらに、文を書くことに対しては、資料から必要な情報を読み取ることや文字数制限のある問題に取り組む機会、自分で要旨をまとめる機会等を増やしていきたいと考えている。

#### 算数

算数においては、半分の区分において全国の平均正答率よりも上回っていた。しかし、学習指導要領の領域『変化と関係』『データの活用』においては、課題が見られた。また、領域に関わらず、情報量の多い問題については、国語科と同様、必要な情報を的確に読み取り問題解決に活かすことに課題が見られた。

それらを受けて、どの領域においても、子ども自身が問題を粘り強く読み取り、自ら考え表現し、子ども同士がつながる授業をめざしていきたい。子ども同士が問題について話し合うなかで、問題を解決するために必要な情報は何か、その情報をどのように活用するとよりよく問題が解決できるかを見つけ出す授業の展開となるよう授業改善していきたい。

さらに、めざす授業のために、問題の場面設定についても工夫し、子ども自身が問題解決への意欲をもって授業が始まり、子どもが考え、子ども同士がつながる授業をめざして、校内全体で引き続き研究を進めていきたいと考えている。